

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.11

ドキュメンテーション



平成 22 年度卒業生

■激動の時代を乗り越えよう！

ドキュメンテーション学科にとって第4回目の卒業式を迎えるにあたり、卒業生が入学した2007年（平成19年）以降の4年間にどのような出来事があったのか振り返ってみました。皆さんは、入学したときの首相が誰であったか覚えていますか。当時は安倍晋三氏が首相で、その後、福田康夫首相、麻生太郎首相、鳩山由紀夫首相、菅直人首相と、皆さんが在学中に首相が5人も変わりました。この間政権も自民党から民主党へと変わりました。このように不安定な政治は、社会にも大きな影響を及ぼしています。

文部科学省の学校基本調査によれば、大学・短大進学率は年々上昇し、2007年には47.2%でしたが、2010年には56.8%となり、9.6ポイント上昇しています。一方、2007年3月の大学生の就職率は67.6%でしたが、2010年3月の就職率は60.8%であり、2011年3月はさらに下がることが予想され、厳しい状況が続いています。

明るいニュースでは、日本人宇宙飛行士の若田光一さんと野口聡一さんが宇宙ステーションに長期滞在し、様々な実験と地上との交信を通じて宇宙の不思議を披露してくれました。日本人のノーベル賞受賞が相次ぎまし

た。2008年に物理学賞で南部陽一郎氏、小林誠氏、益川敏英氏、化学賞で下村脩氏が、2010年に化学賞で根岸英一氏と鈴木章氏が受賞し、日本の自然科学分野の研究水準の高さを世界に示しました。一方2011年1月29日にサッカーアジアカップで日本がオーストラリアを破って優勝したのも嬉しい出来事です。

ドキュメンテーション学科では、今年の卒業生が設立当時の2コース制の最後の学年で、3年生から3コース制にカリキュラム改定が行われました。貸与しているPCのOSも入学年度により、Windows XPからVista版になり、4月からはWindows 7に変わります。情報の世界も2010年は電子書籍元年と云われ、iPadなどが話題を呼びました。どの分野においても、今は激動の時代です。それらの変化に対して、ある時は敏感に、ある時は熟慮しながら、プラス思考で柔軟に対応できる知識や技術を養う努力をしましょう。卒業生の皆さんの社会人としてのご活躍を祈っています。

ドキュメンテーション学科主任

原田 智子 Tomoko Harada

平成 22 年度 卒業論文題目 — 4 年間を振り返って

●原田智子研究室

原田研究室では卒業論文を作成するにあたり、現在の調査状況や問題点などを記入する Word の報告書を毎週提出することが義務付けられています。毎週のゼミや、夏休みのゼミ合宿の中で発表を何回も行うので、1月の最終発表会までに人前で話すことに慣れることができます。卒業論文の提出は12月中旬ですが、原田研ではその1ヵ月前に完成させることを目標としているので、データの収集や分析は前倒しに進めてしまうことをお勧めします。(清水杏子)

- 岩崎 麻未 日本における雑誌の出版状況に関する調査・分析
- 大川 紀之 動画共有サイトに対する大学生の意識調査
- 金子 竜也 Google と Yahoo!JAPAN における検索結果の比較調査
- 菊川知加子 鶴見大学司書講習受講者における司書資格取得に関する意識調査
- 清水 杏子 レファレンス協同データベースの文学カテゴリにおけるレファレンス事例の内容分析
- 寺島あおい 鶴見大学図書館における児童書の利用と活用に関する調査
- 寺田 真純 IT パスポート試験問題の分析と出題傾向
- 初級システムアドミニストレータ試験との問題内容の比較 -
- 登尾 麻鈴 大学生の読書傾向に対する意識調査
- 宮本 優子 文部科学省の図書館調査に基づいた日本の図書館の現状分析
- 渡邊美登理 公共図書館の子ども用 Web-OPAC に関する調査



●岡田靖研究室

私の学生生活は様々な事を経験することができた4年間でした。授業や部活、バイト等をただ繰り返しているだけだと思っていた日々でしたが、今思えば、常に自らが選択肢の中から進む道を選んでいくことに気がつきました。◇私の学生生活での1番の財産と言えるものが教育実習です。教育課程では卒業単位に入らないものもあり、大変だとも思っていました。しかし、そのおかげで実習に行くことができ、今までとは違い、その人にあった接し方や人に指導する難しさを実感することなど多くの経験をすることができました。◇学生生活の中で失敗した経験も多々ありましたが、失敗したその時はマイナスでも後々プラスになっていたと思います。大事なものは何をしたのかではなく、何を学んだのかという事だと私は思っています。社会人とは違い、まだ失敗が許される学生だったからこそ多くのことに挑戦していったのだと思います。(藤井竜太)

- 早川 裕行 NCRの歴史と今後 コンピュータ目録と目録規則
- 石渡 翔矢 SNSにおける諸問題
- 井上 周平 映像と文献で見るSGの歴史
- 後藤 圭貴 映像資料としての映画にみるファッションの変遷
- 塩田 隆三 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) における諸問題について
- 菅原 竜一 クリーンアップは有効に機能しているか Excel によるデータ分析
- 鈴木 隆徳 昭和と平成の太平洋戦争関連出版物の比較でみる日本人の意識の変化
- 藤井 竜太 エラーで出したランナーは失点につながるか Excel を使用したスコアブック分析
- 南橋 大輝 打率と勝敗の関係 Excel によるデータ分析
- 森悠 貴 日本サッカーと韓国サッカーの違い Excel によるデータ分析から
- 森下 真代 電子書籍の諸問題
- 山内 悠加 分類法の歴史と比較



◎大矢一志研究室

私の卒論では、実験方法を一から構築しなければなりません。7月までにその実験方法を確立したことによって、夏休みに実験を本格的に行い、卒論に書く内容のデータが集まりました。夏休み中も卒論主体の生活リズムを崩すことなく実験を繰り返すことが出来たため、10月からは卒論の本文の執筆だけに集中することが出来ました。◇1年間を通して大まかな計画を持ち、その中で、時間をふんだんに使える夏休みを有効に活用することによって、10月以降の作業をスムーズに進めることが出来ると思います。私の計画は、2月から5月くらいまでにテーマを絞り、7月までに卒論の目次を作り、必要になってくる実験やデータ集めの方法を確立し、夏休みを実験、データ集めに充て、10月から卒論の本文を執筆する、というものでした。私の中で卒論は、大学生活4年間の集大成だけでなく、長い期間の中で計画を立てて行動するという訓練にもなったと感じています。(濱野浩之)



南雲 意 古地図における地物情報のテキストデータ化
 濱野 浩之 構成論に基づいた立体画像の質感変化の研究
 吉田 隼也 ろう者における症状のコミュニケーション分析

◎伊倉史人研究室

石橋 徹 健康データベースの構築・生活習慣病予防に向けて・
 櫛間 麻未 源氏物語双六の研究
 則武 大祐 花押の歴史と類型
 水品 雄大 和歌の四季からみる景物の色
 水島 康 幕末、明治期の出版物の変遷
 水野 裕介 社会的ネットワークサービスにおける関係の空気
 ・書き込みサイトの実態調査・

◎久保木秀夫研究室

奥村 齊亮 古典籍・古筆切における料紙の判定に関する調査研究

4年間を振り返って今思うことは、〆〆を扱う技術がよく身についたということです。入学したばかりのころは、最初は何から手を付ければよいのか勉強方法もわからず、ひたすら復習の毎日でした。上級生になっても、先生に何度も繰り返し教えてもらい、より専門分野の高度な授業内容にもついていけるようになりました。特にプログラミングの授業は、最も難しい授業で、一番先生に迷惑かけました。ですが、この授業を乗り越えて単位をもらえたことは、私の人生の中でも印象に残るくらいうれしかったです。(水野裕介)

ドキュメンテーション学科の授業はパソコン初心者だった私にもわかりやすく、1年次にはもうホームページの自作くらいは出来るようになり、2〜3年次にはデータベースの構築やプログラムの作成など、次第に専門的なことも扱えるようになっていきました。また卒業論文では個々人の書きたいことを尊重してくれる学科ですので、私は情報学コースを選択していましたが、古写本の料紙判別という書誌学の内容で卒業論文を提出することが出来ました。(奥村齊亮)



●元木章博研究室

大学3年間で培ってきた全ての知識を活かし、4年生ではその集大成として卒業論文を書き上げました。そのために、多い時はほぼ毎日ゼミに行ってお先生に相談したり、図書館とゼミを何度も行き来し、文献資料を集めていました。非常に大変でしたが、ゼミの仲間と助け合い、励まし合いながら頑張りました。就職活動もゼミと並行して活動しなければならなかったのも、最初は予定を組む事に慣れていなくて大変でした。大学内外の人達からそれぞれ情報やアドバイスを頂き自分なりに改善し、バランスのとれた予定を組み、充実した日々を送ることが出来ました。その結果、卒論を無事に提出することが出来、内定も得ることが出来ました。(折笠真由子)

- 安西 隼平 デジタルゲームの有効利用に関する調査
- 磯野 慈武 若年者間におけるEメールでの感情伝達に関する提案
-適切な選択に基づく絵文字の有用性-
- 井上 雄介 研究室活動におけるSNSによる「日記」「コメント」機能のデータ分析
- 小川 倫誉 閲覧者の視点から見たWeb広告の評価および情報収集法の提案
- 小川 由姫 インターネット詐欺の教材開発と評価
-最新の「ガンブラー攻撃」を模倣した疑似体験学習-
- 折笠真由子 インターネット依存回復を目的とした専門施設の調査
-日本への「reSTART」導入の提案-
- 鈴木 結依 全国の公共図書館におけるWebアクセシビリティの調査と評価
-診断ツールの比較・評価を踏まえて-
- 高野 敏之 元木研で作成された教材のLMSでの活用に関する調査
- 寺尾 拓昌 インターネット普及によるクロスメディアの有用性の調査
- 永澤 一久 普通教科「情報」の改善すべき現状への提案
- 野本 光志 DAISY図書オーサリングソフトウェアの機能評価
- 半沢 秀憲 LAN環境における不正アクセス対策の提案および運用
-なりすましの危険性-



●長塚隆研究室

長いと思っていた4年間の大学生生活もあっという間に過ぎてしまい卒業を迎えてしまいました。学生生活を振り返ると学業やサークル活動、ゼミでの卒論作成などを通して、人との出会いがとても大切なものだったと思います。大学でまだまだやりたいことがたくさんありますが、今度は社会人として新たな一歩を踏み出そうと思います。学生生活で得た貴重な経験を生かせるように頑張りたいです。(中山大基)



- 宇野 暁央 電子書籍における著作権処理の課題
-Google BookSearchの事例を中心に-
- 神野こずえ Wikipediaの利用動向調査
- 中山 大基 Wayback Machineによるホームページの解析
- 吉原 将人 バドミントンのデジタル教材の作成
- 竹内 康貴 卓球の初心者向けデジタル教材の作成
- 平山 慧 著作権教育のためのデジタル教材の作成
- 廣瀬 弘幸 大学生の携帯電話の新しい利用形態に関する調査
- 櫻庭 拓也 大学生のパソコンの利用における変化と動向
- 橋本 歩 日本における電子書籍ファイルフォーマットの現状と課題
- 山下 裕之 高速度撮影用カメラによる卓球のデジタル教材の作成
- 川下 雅彦 現代の生活におけるオークションの存在と利用

ドキュメンテーション 第11号 平成23(2011)年3月16日(水)
 鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会 学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>
 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 (〒230-8501) ☎ 045(581)1001 (代表) 発行責任者: 原田 智子
 ■ 編集委員 [学生] 井上 優・金丸早希 [教員] 原田智子・元木章博